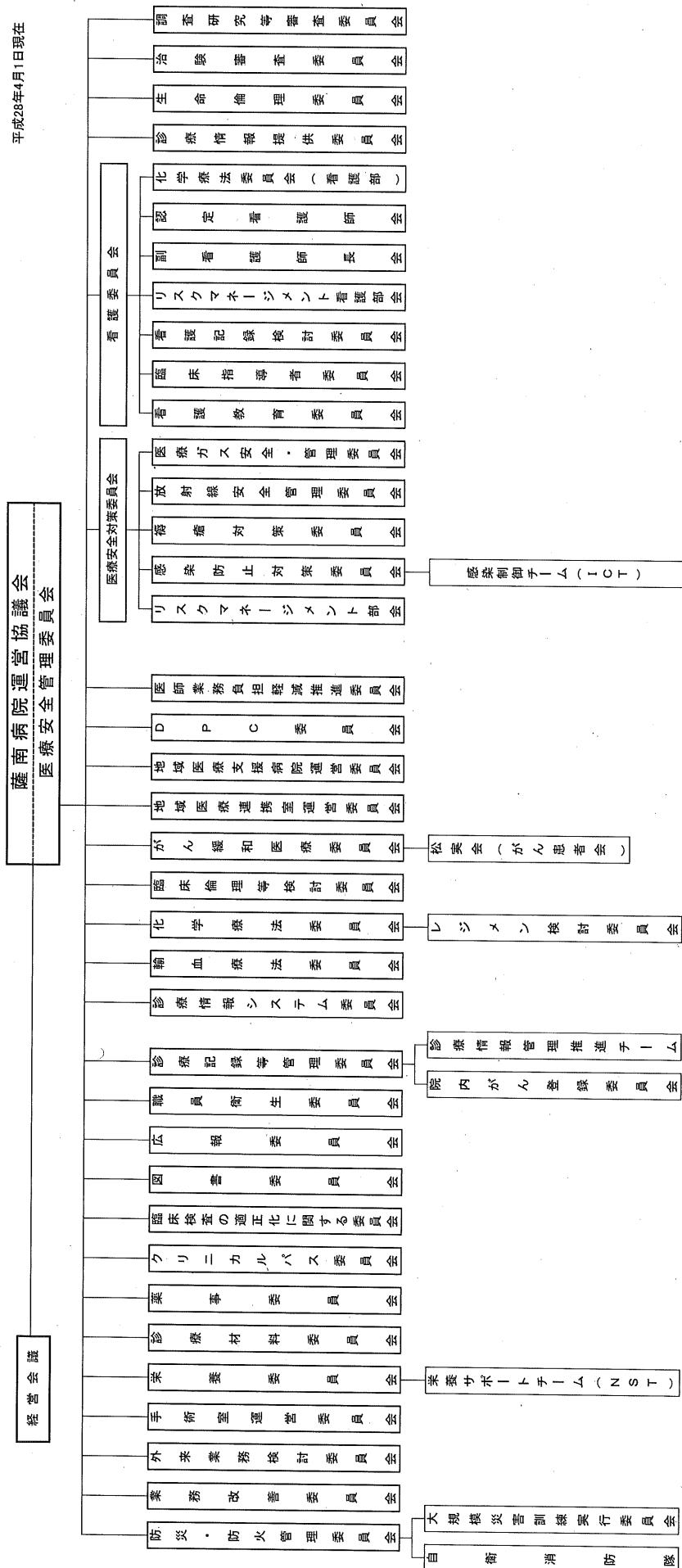


6 (1) 県立薩南病院委員会組織図

平成28年4月1日現在



(1)-1 栄養委員会

1 目 的

給食が患者の疾病的治癒・回復の役割を担うため、その運営が円滑かつ適切に進められるよう給食に関する事項について協議します。

2 委 員

内科医師 2名、総看護師長、事務次長、経営係長、副総看護師長、外来看護師長、病棟師長、中材・手術室看護師長、人工透析室看護師長、栄養管理室長、管理栄養士、調理員

3 活動報告

1) 第1回栄養委員会

開催日：平成28年7月26日（火）

内 容：・食事オーダーの一部区分変更について（GFO）

- ・要綱の改正について
- ・時間外のオーダーについて
- ・栄養指導・病棟訪問について
- ・要冷蔵品の確実な廃棄について
- ・帳票の記入について
- ・嗜好品に対する対応の禁止について
- ・給食材料費削減の取組みについて
- ・配膳車の衛生的な取扱いについて
- ・栄養士実習生について

2) 第2回栄養委員会

開催日：平成29年2月7日（火）

内 容：・病棟訪問の強化について

- ・時間外のオーダーについて
- ・栄養指導・病棟訪問について
- ・要冷蔵品の確実な廃棄について
- ・適時調査に関する事項
- ・嗜好に対する対応の禁止について
- ・給食材料費削減の取組みについて
- ・配膳車の衛生的な取扱いについて

(1)-2 栄養サポートチーム（N S T委員会）

1 目 的

・ 入院患者の栄養摂取に関する栄養評価を行い、適正な栄養状態に導けるよう栄養管理介入を実施します。

2 委 員

医師、担当看護師長、各病棟看護師、管理栄養士、栄養管理室長、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、経営係長、外来看護師

3 活動報告

1) N S T委員会 毎月 1回開催

- ・ カンファレンスの実施及び結果報告
- ・ 症例検討
- ・ N S Tラウンド候補者名簿の結果判定等の見直し
- ・ N S T研修会の開催及びN S T活動の評価

2) N S T全体研修会

〈第1回N S T全体研修会〉

開催日：平成28年6月23日

参加者：40名

テーマ：・腸の消化と吸収のメカニズム及びブリストルスケールについて
・サンファイバーについて

〈N S T・褥瘡合同研修報告会〉

開催日：平成29年3月3日

参加者：39名

内 容：褥瘡委員会から年間報告

：症例報告1～3病棟（褥瘡・N S Tの両方からのアプローチ）

テーマ：・臨床検査からの栄養アセスメント
・褥瘡と栄養
・褥瘡対策

(1)－3 クリニカルパス委員会

1 目的

クリニカルパスの利用促進により、インフォームドコンセントの充実及び医療の標準化、質の向上、患者満足度の向上を図る。

2 委員

担当医 2名、薬剤師、栄養管理士、理学療法士、各部署看護師 1名、担当看護師長 1名、経営課

3 活動報告・実績

- 1) クリニカルパス委員会：毎月第3金曜日（16:00～16:30）開催。
- 2) 平成23年10月に電子カルテが導入され、ソフトマックスからパステンプレートの作成手順を学び、病棟ごとに使用頻度の高いパスから作成を行った。現在、電子パスは、29種類が運用されている。
- 3) クリニカルパスの見直しを行った。
見直し 2件
- 4) クリニカルパス活動報告広報誌発行
平成29年3月10日（金）

(1) -4 がん緩和医療委員会

1 目的

がん患者の体や心の苦痛症状の緩和、病名告知や病状説明の理解の促進、患者の適切な療養の場の提案、院内スタッフへの緩和ケアの研修会の開催などを行う。

2 委員

医師 2 名、総看護師長、副総看護師長、副地域連携室長、地域連携室副看護師長、3 病棟看護師長、外来看護師、各病棟看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、放射線技師、経営課、がん専門看護師、がん化学療法看護認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師、緩和ケア認定看護師

3 平成 28 年度目標

【目標】

- ① 患者・家族が診断時から適切な緩和ケアを受け、全人的苦痛が緩和できる。
- ② 地域と連携しシームレスな緩和ケアの提供

【行動計画】

- ① 多職種と連携、各部署においてカンファレンスの継続と内容の充実
- ② 4つの側面シートを活用、他部署への情報発信・内容の充実
- ③ 疼痛アセスメントシートの活用と定着
- ④ デスカンファレンスの実施と定着
- ⑤ 朝カンファレンスの継続
- ⑥ 地域がん医療研修会の企画・運営（年 2 回）
- ⑦ がん患者と家族の会：松実会への参加
- ⑧ がん緩和医療委員会活動報告
- ⑨ 院内・院外への研修会への参加

4 活動報告

- ① 毎月第 1 木曜日の 16 時から定例会議を開催した。
- ② 4 つの側面シートは活用出来なかつたが、患者の苦痛のスクリーニングとして STAS-J 導入に取り組んだ。また、“生活のしやすさに関する質問票”を用い、薩南病院に来院されるがん患者さん全ての苦痛のスクリーニングを実施した。
- ③ 各部署でデスカンファレンスを実施できた。

- ④ 毎月担当部署のチーム員が、松実会の手伝いを行った。

月 日	テーマ	お手伝い担当部署
4月 14日	馴染みの歌をご一緒に！	2病棟
5月 12日	タオル帽子作り＆語り合い	3病棟
6月 9日	砂の砂像作成＆語り合い	外来
7月 14日	七夕作り＆語り合い	1病棟
8月	休み	休み
9月 8日	タオル帽子作り＆語り合い	2病棟
10月 13日	ミニコンサート（クラリネット・フルート演奏）	3病棟
11月 10日	フラワーアレンジメント＆語り合い	外来
12月 8日	砂の砂像作成＆語り合い	1病棟
1月 12日	足湯	2病棟
2月 9日	インフルエンザ流行のため延期	3病棟
3月 9日	花見＆語り合い・リリーオンコジー・オン・キャンパス作品展	外来

- ⑤ 地域がん医療研修会の参画

※がん拠点病院として、地域のがん医療に従事するスタッフと、当院スタッフに研修の機会を提供し、がん医療の質の向上を図る目的で、研修会を企画・運営

- (第1回) 開催日時：平成28年12月2日 18時～19時30分

テーマ：『がん診療における漢方薬の役割』

講 師：JCHO 星ヶ丘医療センター 緩和ケア科 川原 玲子 先生
→56名参加

- (第2回) 開催日時：平成29年1月22日 10時30分～12時

テーマ：『がん患者・家族との関わり』

講 師：北海道医療大学大学院客員教授 石垣 靖子 先生
→74名参加

- ⑥ 院内・院外への研修会に参加

- テーマ：“つながる思いinかごしま”～がんとともに生きる～

日 時：5月14日

→薩南病院 松実会で6名参加

- 第21回 日本緩和医療学会学術大会へ

テーマ：『あなたしさに寄り添って、愛と思いやり、そしてユーモア』

日 時：平成28年6月17日～20日 場所：京都国際会議場

→委員会メンバーより3名参加

●平成 28 年 南薩地域 ELNEC (医療者向け) 開催

日 時：11月 12 日～13 日

参加者：20 名

●鹿児島県緩和チーム研究会に参加した。

⑦ 毎月第 2 火曜日の 7 時 45 分から朝カンファを開催した。

担当部署	内 容
4月：3病棟	悲観的言動のある疼痛評価の難しい患者への介入：14名参加
5月：外来	化学療法の継続を希望する患者の大学病院との連携：15名参加
6月：1病棟	自宅療養を希望する患者・家族への支援～訪問看護との連携 ：15名参加
7月：2病棟	コミュニケーション障害・体動困難のある患者の看護～多職種で連携して ：13名参加
8月：3病棟	体位変換を嫌がる終末期がん患者の褥瘡ケアの振り返り：16名参加
9月：外来	麻薬の自己調整中の評価困難な患者の疼痛コントロールについて ：11名参加
10月：1病棟	余命告知されていない非がん患者に対し、病棟で行える緩和ケアを 考える：9名参加
11月：2病棟	患者・家族と共に充実した最期を迎えるための対応：16名参加
12月：3病棟	自殺した化学療法中患者のデスカンファレンス～病棟と外来の連携～ ：16名参加
1月：外来	終末期独居患者の孤独死～デスカンファレンス～振り返り～ ：13名参加
2月：リハビリ	家族と疎遠な患者の退院支援：14名参加
3月：2病棟	退院を既望した終末期患者の退院支援の振り返り：14名参加

平成 28 度「がん患者と家族の会 松実会」活動記録

ボランティア 参加者の内訳	松実会会长・他病院で看護部長を経験した方・リンパマッサージ施行者・タオル帽子作成の指導者・当院を退職した看護師と看護補助者・元患者さんの家族・砂像連盟会委員・砂の祭典実行委員会の皆さん方、薬品会社職員の方々、当院職員等
------------------	---

(1) 《 定例活動 》

月 日	イベント名	参加者数
4 月 14 日	<p>「一緒に馴染みの歌を歌つたりしませんか。」</p> <p>昔、懐かしの流行歌を一緒に歌いました。</p> <p>♪お富さん ♪四季の歌 ♪高校三年生など昔懐かしい歌を自然と思い出し、生き生きと元気に楽しく歌いました。</p> <p>「ひとりエレキバンドのおじさんとおばさん」がボランティアで参加し、エレキギターで演奏して下さいました。カラオケ設備も準備して楽しいひとときでした。</p>	<p>職員・ボランティア・入院患者・家族・看護学生</p> <p>[合計 30 名]</p>
5 月 12 日	<p>「タオル帽子作り」</p> <p>タオル一枚で手作りの帽子を作りました。</p> <p>帽子作りのボランティアの方の指導の元、時間内に作成することができ早速かぶっていらっしゃいました。</p> <p>とても気に入って帽子をかぶったいいお顔になっていらっしゃいました。</p>	<p>職員・ボランティア・入院患者・外来患者・家族・看護学生</p> <p>[合計 12 ~ 15 名]</p>
6 月 9 日	<p>「砂像造り」</p> <p>砂像連盟・南さつま市役所の観光交流課の皆さんのご協力により、今年は「桃太郎とその仲間達」を制作して頂きました。</p> <p>6月 11 日(木)には、患者さんたちも記念の一彫りを体験しました。患者さんの中には「砂像を観に行くことはあったけど、初めて自分が実際にやってみることができて、人生のよい思い出になった。」と話される方がいらっしゃいました。</p>	<p>砂像連盟・南さつま市役所の観光交流課の皆さん・職員・ボランティア・外来患者・入院患者・家族</p> <p>[合計 25 名]</p>

7月 14日	<p>「七夕つくり」</p> <p>わっかつづり・あみ飾り・ちょうちんなど馴染みの飾りも患者さんやスタッフが一工夫し、すてきな仕上がりになりました。願いことを書いた短冊とともに飾り付けました。</p>	<p>職員・ボランティア・入院患者・家族 〔合計20名〕</p>
--------	---	--------------------------------------

9月 8日	<p>「タオル帽子作り&語り合い」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タオル帽子作りは指導の上手なボランティアさんのおかげで時間内（約1時間半）に出来上がります。縫う動作はさすがと感じるほど上手な方々が多かったです。 ・患者さんたちも完成するのが嬉しい様子です。 	<p>職員・ボランティア・入院患者・外来患者・家族 〔合計18名〕</p>
10月 13日	<p>「ミニコンサート フルート演奏」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの方や患者・家族の方々が、フルートの美しい音色に皆さん聞き惚れていらっしゃいました。 ・♪♪ふるさと ♪♪ 上を向いて歩こうなど集った皆さんから「やはり生の演奏はいい。」と大変好評でした。 	<p>職員・ボランティア・入院患者・外来患者・家族 〔合計35名〕</p>
11月 10日	<p>「フラワーアレンジメント＊語り合い」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フラワーアレンジメントを楽しみました。 ・ツルウメモドキやワレモコウなど秋の木々や草花を職員の皆さんのが提供して下さいました。 ・外来患者さん、入院患者さん共に花がとても好きなご様子で生き生きと創作して「おうちで飾るんだ」と嬉しそうに作成した作品を持って帰っていらっしゃいました。 	<p>職員・ボランティア・入院患者・外来患者・家族 〔合計22名〕</p>
12月 10日	<p>「砂像造り」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の砂像は、来年の干支の『酉』を鳳凰として富士山に舞い上げさせ、おめでたい松竹梅をあしらい、薩南病院の繁栄を願って作成しました。『松やハマボウ』は海が近くにある自然豊かな環境が、患者さんとご家族を癒やせる願いで土台に入れ込みました。今回も南日本新聞が記事にしてくれました。 	<p>砂像連盟、南さつま市商工観光課職員・ボランティア・入院患者・外来患者・家族 〔合計38名〕</p>

1月 12 日	<p>「あし湯・リンパマッサージ 語り合い」</p> <ul style="list-style-type: none"> 1月はボランティアの皆様の協力も得て、チーム式の足湯をしました。患者さん方は「からだ全体まで温まつた。」と大変好評でした。 	職員・ボランティア・外来患者・入院患者・家族 [合計 18 名]
---------	---	-------------------------------------

2月 18 日	<p>「ミニコンサート・ハープ、フルート演奏」</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めての試みとして準備を整えましたが、南薩地域でインフルエンザが猛威を振るい、当院で面会禁止となったため急遽中止し、来年度へ延期となってしまった。出演して下さるお二人の日程調整をし、平成 29 年 5 月 11 日に出演して下さることになった。 	
3月 9 日	<p>「花見・写真絵画の鑑賞会」</p> <ul style="list-style-type: none"> モクレンの花が玄関先に一斉に咲き乱れ大変美しい見事な咲きっぷりでした。 正面玄関にリリーオンコロジーの写真・絵画コンテストで入賞した作品のレプリカを飾り鑑賞会をしました。 ボランティアの方と来年度の松実会の行事予定の話し合いました。 	患者・家族の方々、職員・ボランティア [合計 7 名]

(2) 《 トピックスほか 》

月 日	イベント他	内 容
5月 9 日	ドルフィンポートで「命のリレーラウオーク」に参加。	参加者は看護師と薬剤師・放射線技師や事務職員で総勢 24 名でした。



(1)-5 院内感染制御チーム (ICT)

1 目的

院内感染対策委員会の下部組織として、現場での院内感染対策実働部隊として、全職員を対象に科学的根拠を用いた感染防止対策教育・啓蒙を継続的に実施する事を目的に活動する。

また、平成23年度から感染防止対策加算I・感染防止対策地域連携加算を取得し、地域における感染防止対策の充実、推進を図ることを目的に活動を行っている。

2 構成メンバー

- ・ ICT メンバー：リーダー/木原消化器外科部長、ICD/田中総合診療内科部長、サブリーダー/屋外来看護師長、感染管理認定看護師/長崎奈穂、今村薬剤師、前之原検査技師、久保放射線技師、山神理学療法士、中村副総看護師長、田畠主査(経営課)
 - ・ リンクナース委員：竹之内美紀、宇都由香、増永奈津子、稻森淳子、山之内千草、宮崎利久、谷山伶奈、木佐貫里沙、上畠まち子、板敷真由美
- 計医局2名・看護部13名・薬局・検査・放射線部・リハビリ室、事務各1名でICT委員会を月1回の会議として運営している。

3 平成28年度の目標

- (1) ラウンドを通して標準予防策の徹底を図り感染防止に努める。
- (2) 職員研修企画運営を行い、感染対策の意識向上に努める。
- (3) 南薩地域の医療従事者および地域住民に対して感染予防研修企画運営を行い、地域レベルで感染防止対策の意識向上に努める。
- (4) サーベイランスの実施。
- (5) 院内感染マニュアルの見直しを行う。

4 活動の実績

- (1) 院内感染の減少
カテーテル関連血流感染発生0件、尿道留置カテーテル感染1件、SSI7件（5件は緊急手術で汚染創）、手指衛生使用量9~12月に前年度より低減のため強化対策実施。
- (2) 職業感染の減少
針刺し5件、切創1件であり、医師4件、看護師2件であった。医師の事故はセーフティゾーンなどが確保できていない要因もあるため、ハード面も強化した。
- (3) 抗菌薬適正使用の促進
抗菌薬適正使用ミーティングを年間124件実施。介入として培養検査提出、デ・エスカラーションの促進、TDM測定の活用を行った。
- (4) ICTラウンド
ICTコアメンバーによる環境ラウンドを年間43回実施、LN主体ラウンドは年3回実施し、環境面問題の改善につながった。
- (5) 研修会開催
年2回の全体研修会（参加者：前期99%，後期100%）、今後も現場職員の感染防止対策意識の向上に努める。
- (6) 地域カンファレンスの実施
加算1・1相互ラウンド（2回）、加算1・2地域連携カンファレンス（年4回）実施
- (7) 地域に向けての取組
いろはセミナー3回実施（参加者：1回目62名、2回目45名、3回目108名）にて地域医療従事者および地域住民に対する感染予防の基礎知識の向上に努めた。
- (8) 学会の参加
第32回日本環境感染学会参加者4名および1名はポスター発表、花王ベストプラクティス研修参加3名および演題発表、看護協会感染防止対策研修会2名参加

(1)－6 褥瘡対策委員会

1 目的

当院における褥瘡対策の適切な推進を図る。

2 委員

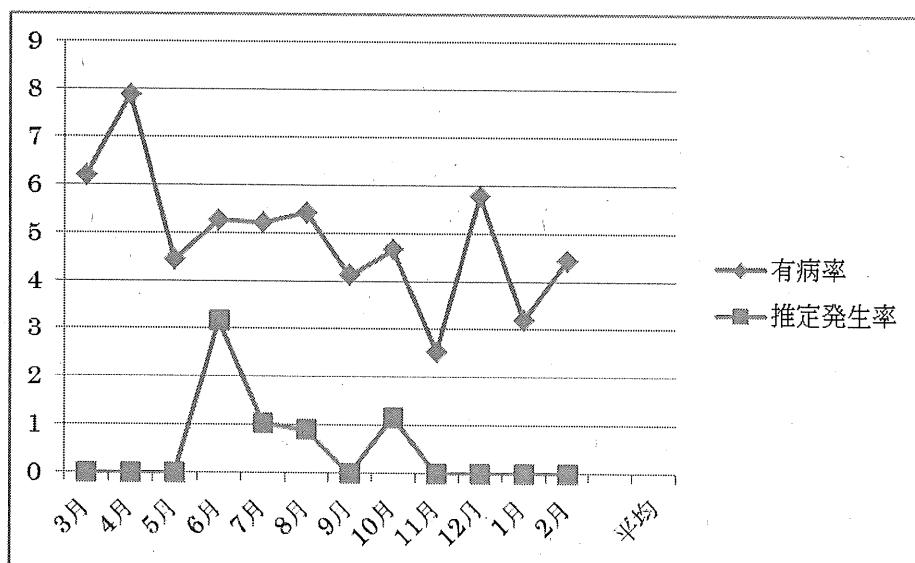
医師、副総看護師長、病棟看護師長、各病棟看護師、経営課、栄養士、薬剤師、理学療法士、皮膚・排泄ケア認定看護師

3 目標

- 1) 褥瘡の新規発生を20件以内にする。
- 2) NSTとの連携を強化する。

4 活動実績

- 1) 褥瘡推定発生率：平均0.52% 褥瘡有病率：平均4.92%



2) 研修会

- 第1回：マットレスの選択とポジショニング
- 第2回：これでOK!褥瘡評価と帳票記入
- 第3回：NST褥瘡対策委員会合同研修会（褥瘡と栄養その他）

(1)－7 教育委員会

1 目的

専門職業人としての資質を高めるとともに、看護技術の向上及び看護実践能力の向上を図るため、計画的に現任教育を行う事を目的とする。

2 活動実績

(1) 委員

副総看護師長兼看護師長 1名

副看護師長教育担当（各病棟、外来、透析、中材・手術室）

(2) 定例会

毎月第3月曜日（15：00～16：00）

(3) 内容

- 1) 看護研究、院内研修会の企画・運営
- 2) 院外研修会、学会参加への援助
- 3) 看護部門各セクション別学習計画の企画・運営
- 4) ラダー別研修の企画・運営
- 5) 新人看護職員研修の企画・運営を新人看護職員卒後研修ガイドラインに沿って行う
- 6) 看護補助者研修の企画・運営

《ラダー1》

①新規採用者4名に対して、新人看護職員ガイドラインに沿って、副師長が講師となり、研修を行った。

②プリセプターと共に振り返り研修を行った。

日時	内容
5月16日	1ヶ月を振り返って
7月19日	3ヶ月を振り返って
10月17日	6ヶ月を振り返って
2月20日	事例発表

《ラダー2》

日時	内容
5月12日	日々リーダーについての研修パート1
12月19日	事例検討（ケーススタディ）
1月16日	日々リーダーについての研修パート2

《ラダー3・4》

- ①各コースに分かれ計画を立案し活動した。

コース名	人数	活動内容
看護研究	17名	研究発表に向けて研修に参加しまとめを行い発表した。
地域医療連携	23名	「地域包括ケアシステム」や「在宅医療」の研修に参加し、地域との連携をどのようにしていくかを学んだ。
がん看護	15名	定期的に認定看護師を講師に学習会を実施した。
ナラティブ	21名	ナラティブの基礎を学び、語り合いを行なった。

《平成28年度 看護補助者研修・実績》

	開催日	内 容	担当	参加者
第1回	5月25日・26日	病院・看護部の方針を知る	総看護師長	14名
第2回	6月14日・15日	～基本的な看護技術～ 清拭・陰部洗浄・手浴足浴・患者の移乗	1病棟・2病棟・ 3病棟	
第3回	7月12日・13日	～医療安全～ 感染予防策・個人情報保護	透析室・外来・ 手術室	
第4回	8月	接遇	各部署副師長	

《平成28年度 共通研修実績》

回	開催時期	内 容	講 師	参加者
1	4月25日	総師長講話	吉元総看護師長	38名
2	7月20日	看護研究計画書添削	鹿児島純心女子大学看護学科教授 七川 正一先生	36名
3	10月26日	看護倫理研修会	枕崎市立病院 看護部長 中村 育美先生	31名
4	2月1日	トピックス研修 「寄り添い生きる」	本願寺派善福寺住職 長倉 博伯先生	院内41名 院外19名
5	2月16日	看護研究発表会	鹿児島純心女子大学看護学科教授 七川 正一先生	37名
6	3月8・9日	固定チームナーシング 小集団活動報告	各部署小集団活動を報告	1日目54名 2日目45名

(4) 教育委員としての質の向上

- ①委員会時に、看護協会の教育ガイドラインを用いて勉強会を行った。

(5) 教育の評価と課題の検討

- ①各研修後にアンケートを実施し、次年度の教育計画を立案。

- ②次年度から導入するe-ラーニングを取り入れた教育計画の立案。

(6) 院外学会発表

1) 第52回県立病院学会（平成28年10月19日）

1病棟：「看護師が発熱患者に行う冷罨法の認識調査」

2病棟：「未滅菌手袋を用いた気管内吸引手技における菌検出結果」

(1)-8 臨床指導者会

1 目的

看護学生の臨地実習において、安心して安全に実習が展開できるように指導法、環境調整などを検討する。

2 委員

副総看護師長兼看護師長1名、各病棟看護師1名

3 活動報告・実績

(1) 定例会：毎月第4木曜日（14:00～15:00）

- 1) 実習校と打ち合わせ、実習受け入れの準備・環境調整をする。
- 2) 看護実践の場、カンファレンスで学生へ助言及び指導をする。
- 3) 実習を振り返り実習目標の達成状況について学校と評価する。

(2) 内容

- 1) 臨地実習の基礎・専門過程、学年ごとに事前打ち合わせと反省会を実施。

- ・鳳凰高等学校（基礎過程2年生）（専門過程1年生、2年生）
- ・鹿児島医療専門学校1年生（基礎看護学実習I-1, I-2）

2年生（基礎看護学実習II）

- 2) 臨床実習毎に実習評価表を用い、情報の共有と課題について検討。

- ・評価項目：対人関係、看護過程の展開、看護ケアの実際、実習態度、課題

- 3) スタッフの実習指導に対する評価のアンケートを実施。

- ・7月と2月に実施し、スタッフの実習指導に対する意識の向上に努めた。

(3) 臨地実習指導者会への参加

- 1) 凤凰高等学校：平成28年8月19日（金）1名

- ・臨地実習についての報告
- ・今後の実習の在り方についての検討

- 2) 鹿児島医療福祉専門学校：平成28年8月26日（金）1名

- ・臨地実習についての報告
- ・今後の実習の在り方についての検討

(1)-9 看護記録検討委員会

1 目 標

看護記録の記録が適切であるか評価し、看護の質を高める。

- 1) 5病院統一の監査用紙で監査した評価を伝達する。
- 2) 重症度、医療・看護必要度研修会を開催し、適切に評価記載ができるように現場で指導する。

2 計 画

- ・委員監査・自己監査を年2回実施
- ・質的監査を年1回12月に実施
- ・機能評価における看護記録の充実を図る。

3 委 員

- ・1病棟看護師長（坂元）
- ・各部署看護師（今村・山崎・末永・永吉・鮫島・宇木・赤井・豊島・葉棚・宮田・御領菌）

4 活 動

毎月第2金曜日(15時～16時)

- ・各部署の数値目標提示、検討
- ・部署別の実践の場での問題点、および指導点について検討
- ・監査結果の振り返り
- ・学習会の検討
- ・症状別看護基準の見直し

5 実 績

- ・重症度、医療・看護必要度の研修会を全職員へ行った。
- ・自己監査を6月、11月の年2回実施。委員監査を6月、11月の年2回実施した。
- ・フォーカスの看護記録について、記録委員による部署別学習会を実施した。

《年間記録監査状況》

	1病棟	2病棟	3病棟	平均値
計画の修正、評価(90%)	92.2%	82.6%	81.6%	85.4%
退院時看護サマリーの作成(100%)	93.9%	76.6%	79.5%	83.3%
患者参画型看護計画の作成(95%)	99.4%	99%	94.6%	97.6%

(1)-10 副看護師長会

1 目的

専門職としての接遇の向上及び啓発活動、入院患者の生活環境を整える事を目的とする。

2 委員

各セクションの副看護師長、副総看護師長（医療安全担当）、副総看護師長（教育担当）

3 平成28年度目標

- 1) 接遇の向上及び啓発活動をする。
 - ①接遇ラウンドの実施
 - ・3回／年（6月・9月・12月）
 - ②接遇DVD学習会の実施
- 2) 副師長としての資質の向上に努める
 - ①学習会の実施

4 活動報告・実績

1) 定例会：毎月第2木曜日（15:00～16:00）

2) 内容：

（1）接遇の取り組みについて

- ①毎月1本、接遇DVD（全4巻）を自部署で視聴し、視聴後のコメントを記載することで意識づけに繋げた。
- ②入院時の患者情報聴取時に、「意見箱」用紙を配布し、患者やご家族の意見の収集を行い、意見を参考に接遇の向上に役立てている。意見箱にはお礼の言葉を記載した内容を多く頂けるようになった。

（2）環境ラウンドについて

6月・9月・12月に実施した。

○環境ラウンド評価表のチェック項目

視覚領域：病室、病室のベッドランプ、トイレ、洗面所、ディルーム、廊下の照明

聴覚領域：会話や足音、看護用具使用中の音、医療機器や器具が発する音

体性感覚領域：塵・ほこり

臭覚領域：臭い

2段階（○現状維持 ×改善が必要）で評価し、回数を重ねると改善が見られた。

（3）ミニ学習会の実施

- ①認定看護管理者ファーストレベル・セカンドレベルを受講した副看護師長・副総看護師長からの伝達研修を行った。
- ②「診療報酬」「自施設の加算状況の要検討」「副師長としての看護管理」「医療と介護の連携」の学習会を行った。

(1)-1.1 リスクマネジメント部会

1 目的

部会は、医療安全管理委員会の求めに応じて、次の事項について調査研究・検討及び企画・立案を行う。

- 1) ヒヤリハット・アクシデント事例の原因の分析、並びに事故予防策の検討及び提言に關すること。
- 2) 医療事故の原因の分析、並びに再発防止策の検討及び提言に關すること。
- 3) 医療事故に関する諸記録の点検に關すること。
- 4) 医療事故防止の為の啓発・広報に關すること。
- 5) その他医療事故の防止に關する事項に關すること。

2 委員 委員会の構成メンバーは以下のとおりである。

副院長、各診療科部長、副診療放射線技師長、副薬局長、副臨床検査技師長、副総看護師長、各副看護師長（リスク担当）、理学療法室技師、事務次長兼総務課長、栄養管理室長、経営係長、主幹兼総務係長

3 活動報告・実績

(1) 定例会：毎月第2木曜日（16:00～17:00）

(2) 定例会での活動内容

目標：1) インシデント・アクシデントの真の原因を明らかにし、分析結果から導いた対策を再発防止・未然防止に繋げる

2) 5S活動を推進し、環境の安全性を高める

インシデント報告及びアクシデント報告の分析・対策評価、事例検討を行った。

【事例検討】

4月	・抗菌薬の準備忘れと配薬時間間違い
5月	・採血管確認不足による過剰採血 ・ホルダー負荷心電図設定間違い
6月	・介護場面における骨節
7月	・点滴流量設定間違い
8月	・気管ステント自己抜去 ・点滴流量設定間違い ・血糖測定患者間違い ・尿管カテーテル自己抜去
9月	・輸血（凍結血漿）施行忘れ ・電カルへの血液型入力間違い ・血清量不測による検査値の異常
10月	・補助具使用患者の転倒 ・指示内容理解不足による注射施行時間間違い
11月	・調剤忘れ
12月	・点滴注射更新患者間違い ・採血管間違い

1月	・検査室への患者間違い案内 ・薬剤指示量の見落としによる調剤 ・手術医材発注不足 ・開封した薬剤の返品
2月	・外来患者急変 ・予防接種日の予約間違い
3月	・指示変更見落としによる不要な薬剤投与 ・指示薬剤規格間違いの調剤

(3) 医療安全研修会の開催 :

日 時	内 容	参加者	参加率	参加できなかつた職員への研修
6/9	医療版失敗学	95名	82.9%	※資料を部署に配布し、レポート提出
	不参加者への追加研修	56名		
2/15	知つて得する伝える力 ～防ぎえたリスク伝え方のポイント～	204名	100%	※D V D資料を部署に配布し、レポート提出
	不参加者への追加研修	10名		

(4) 内部監査 :

回 数	時 期	内 容 ・ 結 果
第1回	7月	共通チェック項目 各部署チェック項目
第2回	1月	共通チェック項目 各部署チェック項目

※内部監査後は、各セクションへ気付きを提案。改善し、結果を再度ラウンドして部会へ報告した。

(5) 医療安全推進週間の取り組み 11月 20 日 (日) ~11月 26 日 (土)

医療安全「川柳」募集し、95作品が集まり、総務課前に展示し全職員が投票を行った。

H28年度医療安全週間 院内川柳作品として各セクションに掲示した

最優秀賞【金子さん 返事をするのは カネオさん】

優秀賞【○○したつもり つもりつもって 事故招く】

(1)-12 リスクマネジメント看護部会

1 目的

医療事故防止対策委員会の下部組織として、以下の活動を行うことを目的とする。

- 1) 看護部におけるインシデント報告やアクシデントレポートの評価分析、再発防止対策の検討・提言
- 2) 医療事故防止の為の啓発・広報
- 3) 看護職員の医療事故に関する研修などの教育企画
- 4) 安全対策に関する継続教育

2 委員

各セクションの副看護師長（リスクマネジメント担当）

3 平成28年度目標

- 1) インシデント・アクシデントの真の原因を明らかにし、再発防止・未然防止の実施にリーダーシップがとれる。
 - ① 事例検討を通して真の原因追求の学習会ができる。
 - ② 部署のスタッフに医療安全の教育・指導・支援ができる。
 - ③ 実施した再発防止の検証・評価ができる。
- 2) 5S活動を推進し、患者一人ひとりに合わせた環境の安全性を高める。

4 活動報告・実績

- 1) 定例会：毎月第1火曜日（15:00～16:00）

2) 内容：

- ① インシデント・アクシデント報告及び対策評価
 - ・各月に自部署のインシデント報告事例を検討し、対策について評価した。
 - ・事例検討 各月、医療版失敗学の上位概念・真の原因について『インシデント・アクシデント速報』用紙を用いて発生要因・改善策について検討を行った。
- ② 内部監査 2回／年実施
 - ・リスクマネジメント部会と2回／年、5グループで全部署の医療安全ラウンドを実施した。
- ③ 転倒・転落防止・再発防止対策検討・評価
 - ・転倒・転落危険度Ⅱ・Ⅲの看護計画立案・見直し・ネームボードに危険度を表示状況及び病室環境調整の実施。
 - ・離床センサー、介助バー使用簿を用い、使用状況が分かるようを共有ホルダ内（リスク看護部会）で一元管理し、情報を共有した。
 - ・転倒転落発生時の現場検証を継続して実施。
- ④ 5S活動の取り組みについて
 - ・環境の安全性の視点で各部署の特性を生かしたチェック項目に沿って、毎週実施した。
 - ・部署の担当者は毎月評価を行い、委員会で自部署の活動状況・課題等を報告した。

- 3) 医療安全管理者研修：1名参加

4) 研修実績 :

- ① 各部署内で学習会を開催
- ② インシデント・アクシデント事案に関する抄読会
- ③ 医療版失敗学～今日の失敗を明日に活かすために～
- ④ 知って得する伝える力～防ぎえたりスク 伝え方のポイント～

5) 院内医療安全研修会への参加

- ① 医療版失敗学～今日の失敗を明日に活かすために～
- ② 知って得する伝える力～防ぎえたりスク 伝え方のポイント～

(1)-13 業務改善委員会

1 目的

院内各部門の業務を横断的に改善するための検討及び職員に対する研修計画の調整等を行う。

2 組織

区分	職	氏名	備考
委員長	事務次長兼総務課長	砂田 貴彦	
委員	総合診療科部長	田中 裕之	局外
リ	看護技術師	宇都直美	中透
リ	技術主査	内原奈津子	透析
リ	看護師長	佐々木郁乃	1病棟
リ	技術主査	中原照美	2病棟
リ	技術主査	森薦ふく代	3病棟
リ	看護技術師	伊比禮恵利子	薬局
リ	技術主査	城戸真知子	放射線
リ	副診療放射線技師長	大久保晃樹	検査
リ	副臨床検査技師長	児玉公輝	リハビリ
リ	技術主査	尾辻昌信	総務課
リ	主幹兼総務係長	渡辺由美	総務課
リ	総務課主査	森山隆	経営課
リ	経営係長	七村盛弘	経営
リ	栄養管理室長	三浦照忠	栄養

3 活動実績

回	開催日	検討事項
1	4月 13日	平成27年度研修会等開催実績について 平成28年度研修会等年間計画(案)について
2	5月 11日	業務日誌の取扱いについて
3	6月 8日	災害時派遣職員及び大規模災害訓練用ビブス等の整備について 栄養指導室の使用方法について
4	7月 13日	外来テレビカード精算機の配置案内について 身体障害者用駐車場の台数について
5	8月 10日	災害時派遣職員及び大規模災害訓練用ビブス等の整備について 院内表示・案内板等について
6	9月 14日	外来テレビカード精算機の移設について 身体障害者用駐車場の増設等について
7	10月 12日	不要物品の廃棄及び執務室、倉庫等の整理について
8	11月 9日	栄養管理室裏周辺の駐車地の状況について
9	12月 14日	駐輪場等近辺での喫煙対策について
10	1月 11日	駐輪場等近辺の喫煙対策後の状況について
11	2月 8日	時間外出口の案内表示について 時間外における病棟案内について
12	3月 8日	平成28年度研修会等開催実績及び平成29年度計画作成について

(1)-14 衛生委員会

1 目的

職員の健康障害の防止、健康の保持増進、労働災害対策等に係る事項を調査審議する。

2 組織

区分	職	氏名	備考
会長	院長	三枝伸二	
委員	事務長	内村秀樹	
"	総看護師長	吉元恭代	
"	事務次長	砂田貴彦	衛生推進者
"	副看護師長	坂口智子	衛生管理者
"	技術主査	宮崎利久	組合推薦者
"	技術主査	久木野清子	組合推薦者
"	技術主査	内宮志保	組合推薦者
"	調理員	田中謙三	組合推薦者
"	技術主査	渡辺幸二郎	組合推薦者
"	総合診療科部長	田中裕之	産業医

3 活動実績

回	開催日	内 容 (特記事項)
1	4月20日	平成28年度事業計画について
2	5月18日	電離放射線作業従事者健康診断結果について HBs抗原抗体検査及び風疹・麻疹・水痘・流行性耳下腺炎抗原検査の実施計画について
3	6月15日	中材・滅菌缶検査結果について
4	7月20日	定期健康診断等実施日程について
5	8月17日	簡易専用水道等検査結果について
6	9月21日	HBs抗原抗体検査、風疹等及びT-S P O T 検査について 院内レジオネラ細菌検査結果について
7	10月19日	インフルエンザ予防接種について ボイラー及び吸引式冷温水発生器のばい煙測定結果について ボイラーパフォーマンス検査結果について
8	11月16日	ストレスチェックの実施状況について HBS、風疹等抗体検査結果について
9	12月21日	インフルエンザワクチン予防接種状況について
10	1月18日	ストレスチェックの集計・分析結果について インフルエンザ予防接種実施結果について
11	2月15日	結核病棟勤務者健診及び深夜業務従事者健診について 職員の喫煙状況アンケートについて
12	3月15日	結核病棟勤務者検診及び深夜業務従事者検診の結果について 平成29年度衛生委員会委員の推薦について 職員の喫煙状況アンケート結果について

※給食従事者検便実施結果、職場点検チェックリスト、公務災害発生状況は毎回報告。

(1)-15 医療安全対策委員会

1 目的

県立薩南病院における医療の安全管理に関する取組の評価等を行う。

2 委員

総括医療安全管理責任者(副院長), 医療安全管理責任者専従, 医薬品安全管理責任者, 医療機器安全管理責任者

医療安全に係る委員会の代表

〔リスクマネジメント部会: 医療安全管理責任者専従兼務, 院内感染対策委員会, 褥瘡対策委員会, 放射線安全管理委員会, 医療ガス安全管理委員会〕

3 活動報告

1) 定例会 毎週水曜日 (16:30~17:00)

2) 内容

- ①医療安全に関する各委員会の活動状況, 取り組み内容及び効果等に関する評価
- ②インデント・アクシデントの分析・対策評価及びラウンドの実施
- ③医療安全に関する情報の収集及び情報提供
- ④医療安全情報の周知方法の検討, 遵守状況の評価
- ⑤医療安全管理に関する職員研修の検討及び実施

(1) - 1 6 認定看護師会

1 目 的

病院の専門機能の充実を図るために、認定看護師としての役割を果たす。

2 委 員

総看護師長、副総看護師長、専門看護師（がん看護）、認定看護師（がん化学療法看護、感染管理、がん性疼痛看護、皮膚・排泄ケア、緩和ケア）

3 目 標

認定看護師としての自覚を持ち、外来、病棟看護師への実践・教育・相談を通し、看護の質の向上を目指す。

4 活動報告・実績

- ① 毎月第3火曜日の午後3時から定例会議を行った。
- ② 各セクションの依頼を受け、勉強会を行った。
- ③ 院外研修の講師依頼を受けた。
- ④ 各病棟のカンファレンスへの参加や、スタッフからの相談を受けた。

(1)-17 診療情報システム委員会

1 目的

診療情報等に係るシステムの導入や更新・改修等に関する事項についての協議し、病院としての考え方を意志決定するとともに、その他の業務用システム、IT機器及び院内LANなどを適正に管理運用するために当委員会を設置する。(H28.11.17 システム委員会を改組)

2 委員

院長、事務長、総看護師長、総合診療科部長、副総看護師長兼外来師長、副地域医療連携室長、1病棟技術主査、2病棟技術主査、3病棟技術主査、中材・手術室技術主査、外来技術主査、透析室臨床工学技士、検査室臨床検査技師、薬局業務技師、栄養管理室技術主査、理学療法技師、主幹兼総務係長、中央監視室、経営係長、経営課専門員、経営課主査

3 活動報告

1) 毎月第3木曜日(16:00~17:00)に委員会を開催

2) 内容

所掌事務を集中的に検討するためワーキンググループ(以下「WG」とする。運用管理WG、ハード・ソフトWG、セキュリティWG、研修WG、総括WG)を設置し、各WGで検討された内容を委員会に報告し、検討を行った。

① 運用管理WG(電子カルテシステムに係る運用管理等)

プログラム入れ替えに伴う機能強化への対応や電子カルテの運用についての改善を行った。また、電子カルテシステムの障害時における病院全体の対応について「電子カルテシステム障害時マニュアル」を作成した。

② ハード・ソフトWG(機器やシステムトラブルへの初期対応)

各部署からの機器システムトラブルについて、システム業者やハードメーカーに連絡し問題解決を行った。

③ セキュリティWG(ウイルス対策、停電対策等)

ウイルスマール等への注意喚起、全館停電時における機器取り扱いについての注意喚起や指導を行った。

④ 研修WG(システム及びPC使用に関する研修会の開催)

研修会の開催

日時：平成28年11月28日17:30~

内容：情報セキュリティ対策について

講師：(株)頭脳センター

参加者：48名

⑤ 総括WG(委員会の開催、他のWGに属さないIT関係の事項)

委員会の開催にあたって連絡調整等を行った。

(2) 会議等開催状況

開催年月日	会議等の名称	開催場所	主な出席者	出席者数	備考
28. 5. 28 ～ 29	がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会	薩南病院 大会議室	研修生 見学・視察者 薩南病院関係者	15名 2名 27名	
28. 7. 28	ふれあい看護体験	薩南病院 大会議室	高校生 薩南病院関係者	4名 2名	
28. 11. 20	県立薩南病院市民講座	南さつま市 市民会館	南さつま市民 薩南病院関係者	160名	
29. 2. 14	救急医療を語る会	薩南病院 大会議室	3市消防本部 南さつま警察署 薩南病院関係者	32名 3名 35名	

(3) 各種実習生受入状況

各種看護師養成機関及び南さつま市消防本部等の実習施設として、下記のとおり実習生を受け入れ、看護師及び救急救命士等の育成に努めた。

(単位:人)

看護師養成施設等名	人員	延人数	実習期間	備考
鳳凰高等学校	18	215	28. 4. 6～28. 4. 22	
鳳凰高等学校	18	212	28. 5. 10～28. 5. 26	
鳳凰高等学校	18	282	28. 5. 31～28. 6. 24	
鹿児島医療技術専門学校	2	78	28. 6. 6～28. 7. 29	診療放射線臨床実習
県消防学校	1	1	28. 6. 9	救急科学生病院実習
鳳凰高等学校	17	248	28. 6. 28～28. 7. 22	
鹿児島医療福祉専門学校	5	5	28. 7. 1	
鹿児島医療技術専門学校	1	45	28. 8. 8～28. 10. 14	理学療法学科病院実習
鹿児島県立短期大学	1	10	28. 8. 17～28. 8. 30	臨床栄養学実習
鳳凰高等学校	17	272	28. 8. 17～28. 9. 8	
鹿児島県看護協会	1	1	28. 8. 31	再就業支援セミナー実務研修
鹿児島医療福祉専門学校	5	20	28. 9. 26～28. 9. 30	
南さつま市消防本部	2	12	28. 10. 3～28. 10. 16	指導救命士病院実習
鳳凰高等学校	17	271	28. 10. 3～28. 10. 27	
鹿児島県看護協会	2	2	28. 11. 2	再就業支援セミナー実務研修
鳳凰高等学校	18	244	28. 11. 7～28. 11. 29	
南さつま市消防本部	7	21	28. 11. 7～28. 12. 13	救急救命士再教育病院実習
鹿児島医療福祉専門学校	14	168	28. 12. 5～28. 12. 22	
鳳凰高等学校	18	194	29. 1. 11～29. 1. 27	
鳳凰高等学校	16	187	29. 2. 6～28. 2. 23	
県消防学校	2	2	29. 2. 9	救急科学生病院実習
鳳凰高等学校	3	24	29. 3. 6～29. 3. 16	
計	203	2,514		